

# シニアが求める セカンド・キャリアって?



いま、自治体・地域ができることは? 相談事業の進め方・事業の組み立てを探る

シニア世代の仕事と働き方、「セカンドキャリア」を模索するシニアの支援が話題になっています。生きがい対策や安心・安全な暮らしなどと並んで、70歳就業時代や「人生100年時代の働き方」などが施策のテーマになっています。60歳前半の継続雇用が広がり、65歳後半の就業確保も努力義務になりました。

はたして、シニアが望むセカンドキャリアの実現には何が必要なのでしょうか。さまざまな職業生涯(キャリア)を積み上げてきたシニア世代は、豊富な経験や成果とともに、「キャリア形成のチャンス会社や組織にゆだねてきた」と言われるように、主体的にキャリアを模索・形成する経験が少なかったという共通した課題も持っています。シニアにとって、セカンドキャリアは、会社選びではなく、「適職の選択」です。大事にしてきた価値観、伸ばしたい能力や特性などを改めて見直しながら、限られた仕事や職場環境の情報から適職を吟味します。問われる相談や支援、転職・就業支援の取組みに必要なことはなにか、セカンドキャリア支援の施策動向や具体的な事例などを交えながら議論してみます。

## 第1部 (13:30~15:00)

### 報告

- 1) 「生涯現役社会」の実現に向けた新たな取組み ..... 厚生労働省職業安定局高齢者雇用対策課長 野崎伸一
- 2) セカンドキャリアを見通すための支援とサポート ..... (有)Cマインド代表取締役 長谷川能扶子
- 3) 自治体の取組みから
  - 生涯現役推進地域連携事業(豊中市) ..... 豊中市市民協働部参事・くらし支援課長 濱政宏司
  - 各地のシニア支援と就労支援 現状と課題 ..... A'ワーク創造館副館長 西岡正次
- 4) 社会調査や各種計画から見えるセカンドキャリアの課題 ..... トトハウス 前田和美・西岡正次

## 第2部 (15:00~16:00)

### シンポジウム

お申込み・お問合せはこちらから

日程

2022年6月21日(火) 13:30~16:00

開催方法

オンライン開催

参加費

無料

お申込み方法

下記リンクまたはQRコードを読み込み、専用フォームよりお申込みください。  
<https://www.adash.or.jp/ssc0621>

お問合せ先

お問合せはお電話にて: 06-6562-0410 (担当: 田中・金築)

お申込フォーム



## 80歳を過ぎても働く?!改めて問われるセカンドキャリア(第2の職業生涯)

40歳を切った「早期希望退職」や転職ニーズが高まる中で、あらゆる世代でセカンドキャリアの設計が問われている。特にシニアのセカンドキャリア支援は重要になっている。2025年以降、高齢人口の伸びは緩やかになる一方、生産年齢人口の減少が一段と進む。地域経済を支える人材(労働力)対応は待ったなしだ。シニアの活躍への期待も高いが…。

「人生100年時代。人は80歳を過ぎても働く必要がある」という試算もあり、「ワーク・シフト」「ライフ・シフト」が話題になっている。シニアのうち介護サービスの利用は2割、7割を超えるシニアは有意義なセカンドキャリア(第2の職業生涯)の模索・工夫している。

## 求人サイトを検索する70代が、5年間に53.7倍の増加…

高齢者の仕事探しの状況を調べた求人検索サイトによると、2017年~22年、「70代」の求人検索数が53.7倍に、「60代」で7.9倍に増加したという。しかし、「希望する仕事がない」「年齢で採用されなかったと思う」といった声のように、セカンドキャリアの設計は課題が多く、不安・不満も膨らむばかりだ。社会的なサポートはどうなっているのか?

## セカンドキャリアとは?会社選びではなく、「希望する仕事と働き方の選択」

新卒一括採用や長期雇用等の社会では、「現役(第1のキャリア)時代」の仕事や働き方の選択は会社や組織に委ねていた。主体的なキャリア形成の経験や習慣が乏しかったと。セカンドキャリアを前にして、「仕事選び、適職探し」だとわかっていても、改めてひとりでキャリアを振り返る(自己理解する)、準備することは難し。サポートが求められているが…。同時に、シニアの希望や適性等にあった仕事と働き方の選択肢づくりも欠かせない。企業・事業所もシニアを力を引き出そうと仕事と働き方の設計が始まっているが…。

## シニアのセカンドキャリア形成と自治体の役割

厚生労働省は2017年から進めてきた「生涯現役推進地域連携事業」を再編し、今年度から「生涯現役地域づくり環境整備事業」とした。①雇用・就業者数の拡大はもちろんだが、②事業終了後の自立した地域の運営に備えて、民間等からの資金調達のスキームが追加された。また多様なセカンドキャリアに対応するため③地域福祉や地方創生等の取組みとの一体的展開などが打ち出されている。事業を担う自治体や地域の皆さんが検討、解決すべき課題は多い。対象者は確実に増大しているが、果たして参加・利用してくれるのだろうか?想定されるセカンドキャリアの課題は何か?「キャリアは自助努力」という風潮を引きつづいたままでは、デジタル化等の仕事や働き方の変化に対応したセカンドキャリアの選択肢を提示したいが…。何よりも多様なシニアが地域で歩み始められるキャリアステップを見極めたいが…。

## めざすキャリアステップを「ことばにし、行動にうつす」ためのサポートとは?

「自主的なキャリア形成」の経験や習慣が少ないことを考えると、キャリアをめぐる自己理解、仕事や働き方の学習や理解(適職・天職・転職)をどうサポートするのか?実は重要課題のひとつ。適性等の検査ツールもあるが、大事なものはツールを使ったコンサルティング、言葉にならない本人の価値観や経験をうまく引き出す対話や面接、相談はまだあまり普及していない。そうした対話を「適職診断フェア」として、企業から直に仕事や働き方の話を聞く「しごとカフェ」(気軽な逆面接会)など、シニアが一步踏み出すための工夫も生まれているが…。

## 無料職業紹介を使いこなせていますか?

自治体に無料職業紹介が普及し始めているが、まだ「求人を集めて求職者に案内する」機能だと思っている場合が多い。例えばシニア支援。多様なシニアのキャリアステップにあった仕事と働き方を市場求人から探すことは難しい。企業の「履歴書と面接」の採用システムにも限界がある。市場求人を探すのではなく、セカンドキャリアに適した仕事と働き方(求人)をつくる・蓄積することが問われ、その実行部隊が無料職業紹介所となっている。仕事(求人)づくりは体験や見学を通して、無料職業紹介所のスタッフが企業と共同で仕事を切り出したり働き方を設計し、その情報が自治体等の相談窓口から発信される。相談窓口では、仕事見学や体験等によってセカンドキャリアを確かめようとサポートを案内する。「旋盤の経験しなくて…」と定年後の不安を話す人が相談を通して、多品種に対応する「作業の段取り」という知見を再発見。体験を経て「段取りをオペレートする」仕事で再就職を実現した。皮革製品のリペア事業所で働きながら、皮革のものづくりショップをセカンドキャリアの目標に準備する女性…。ひとつの経験が、支援する側にも、新たに仕事を開発した企業側にも蓄積され、他のシニアの相談支援に活かされ、企業間で経験が交流され、新たな経験につながっていく。こうした無料職業紹介所の役割が注目されている。みなさんの自治体でも始まっていますか?!